

2018年5月17日 日比谷図書館（於 東京）

チレボン石炭火力発電事業の 概要と日本の関わり



FoE Japan委託研究員 波多江 秀枝

E-mail: hatae@foejapan.org

インドネシア・ジャワ島 日本が関連する石炭火力

① 中ジャワ州バタン

・JBIC融資決定(2016年6月)

= **2000 MW**

← 住民の異議申立て

② 中ジャワ州タンジュンジャティB

・JBIC (1~4号機) = 2640 MW (稼働中)

・JBIC (5、6号機) 融資決定(2017年2月)

= **2140 MW**

← 仏 銀行撤退

④ 西ジャワ州インDRAMユ

・JICA E/S借款中

本体借款要請待ち = **1000 MW**

③ 西ジャワ州チレボン

・JBIC(1号機) = 660 MW (稼働中)

← 住民の異議申立て

・JBIC(2号機) 融資決定(2017年4月)

= **1000 MW**

← 仏 銀行撤退

東ジャワ州パイトン

ジャワ-バリ系統 = 33~40%ほどの電力予備率

チレボン石炭火力発電所 周辺地図



1号機発電所

1号機埠頭

チレボン石炭火力発電所 事業概要

事業サイト： 西ジャワ州チレボン県

●1号機

発電容量： 660 MW(超臨界圧)

総工費： 8.5 億米ドル

事業者： チレボン・エレクトリック・パワー社(CEP)

＝丸紅(32.5%)、Komipo(27.5%)、
Samtan(20%)、Indika Energy(20%)

融資： JBIC、韓国輸出入銀行、

民間銀行(三菱東京UFJ、みずほ、三井住友、ING銀行)

総額5.95億ドル(JBIC＝2.14億ドル)

商業運転：2012年7月開始

(国有電力会社PLNとの長期売電契約PPA 30年)

※日本政府の気候変動対策資金リスト

チレボン石炭火力発電所 周辺地図



1号機発電所

1

Raya-Mundu

チレボン 拡張案件 概要

●2号機

発電容量： 1000 MW(超々臨界圧)

総工費： 約21.8億米ドル(約80 % = 融資調達)

事業者： チレボン・エナジー・プラサラナ社 (CEPR)

= 丸紅 (35%)、JERA (10%)、Samtan (20%)、IMECO (18%)、
Indika Energy (6.25%)

融資： JBIC (7.3億ドル)、韓輸銀、三菱東京UFJ、みずほ、三井住友

蘭： ING 銀行 は ……???

←2015年11月 石炭事業からの撤退表明

仏： クレディ・アグリコル銀行 は銀行団から撤退

←2016年10月 石炭事業からの撤退表明

2017年4月13日 国会審議、JBIC総裁「訴訟の進捗を認識。訴訟の判決ができれば、内容を環境ガイドラインに基づき精査し、適切に対応していく」

2017年4月18日 融資契約を締結

2017年4月19日 バンドウン地裁 = 住民勝訴 = 環境許認可の取消し

2017年7月17日 新しい環境許認可の発行

2017年11月14日 JBIC、1回目の貸付

2017年12月4日 住民・NGOが2度目の提訴

商業運転： 2016年7月 = 土地造成作業を開始、2022年運転開始予定
(国有電力会社 PLN との長期売電契約 PPA 25年)





2017年5月



2017年12月

チレボン石炭
火力発電所から
JBICは撤退しろ!!

#NateJustice | #ReclaimPower
#PeoplePower | #StopDirtyEnergy
#WalhiMemanggil

住み訴訟担当 弁護士
(反原発のための環境チーム)

シェウリ・ダリムンテ氏

RAPEL

(環境保護部長 住民グループ)

リキ・ソニア氏

WALHI

(インドネシア環境)

ドウウィ・サ